

司書職員受験体験記

2007年度卒業生 文学部 文学科

大野 美苑

はじめに

私は卒業後、図書館業務受託部門のある民間企業に就職し、受託先である私大図書館に勤務をしてきました。実際に図書館で働く中で、司書の仕事について、また自分自身がどのように働いていきたいかについて学生の頃とは違った視点で考えるようになりました。

そして5年目となる今年度（2012年）、自身の育ったまちの公共図書館で働きたいという気持ちが固まったため、地元A市の職員採用試験・司書区分を受験し、採用されることとなりました。

ここでは試験の内容・試験準備として取り組んだことや、受験した感想などを書いていきたいと思います。

試験内容

A市職員採用試験・司書区分は、一次試験で筆記、二次試験で論文と個別面接という構成でした。

筆記試験は、公務員試験で一般的に課される教養試験と、図書館学に関する専門試験の二種の試験です。

一次試験から半月ほどで合格発表があり、その10日後に二次試験の論文試験、さらに数日後には個別面接という日程でした。私の受けた試験だけでなく、公務員試験は一次の結果発表から二次の試験実施までが短いのが一般的なようです。二次試験の準備は一次試験の準備と並行して行なうか、それが不可能な場合でも一次の結果を待たずに準備をすることが必要だと思います。A市の場合は、受験申し込み時提出のエントリーシートが二次試験面接の参考資料（面接カード）となる方式でした。その頃私は面接準備にまで考えが及んでいなかったため焦りま

したが、公務員試験の面接カードに関する参考書を購入し、なんとか作成しました。結果として受験申し込み段階から面接のことを考える機会となったので良かったと感じています。

筆記試験

・教養試験

公務員試験の教養試験は知識分野と知能分野とあり、それぞれ範囲がとても広いため、網羅的に十分な学習をするには相当な期間を要します。最低1年は必要と言われていると思います。この事は知ってはいましたが、私は今回の試験の受験を決めたのが大変遅く、一次試験日の3か月前でした。受験決意後真っ先に始めたのは後述の専門試験の準備で、こちらの教養試験の学習に着手出来たのは試験日の1か半月前でした。とても全ての範囲の学習は終わらないであろうと思いましたが、各分野1冊ずつの参考書を買って揃え、当日まで問題を解く知識を1つでも増やすようにしていきました。そのような状況でしたので、やはり全範囲の勉強が出来ず当日を迎えてしまいました。ですが、本来は「教養」を問われているということ信じ、本番では勉強していない分野の問題も諦めず、もともとの知識で考えて解くようにしました。こうした短期の対策で合格できたのは、運が良かったとしか言いようがありません。一次の前は焦りの気持ちで、また試験から一次合格発表日までには不安でいっぱいの日々でした。これから受験をお考えの方々には、教養試験対策にはとにかく早めに着手されることをお勧めします。1年と言わず、受験を決めたその日から学習を始め、どの分野もひと通りのことを勉強して試験に臨めるようにする事が大切だと思います。

・専門試験

専門試験の出題分野は司書課程の範囲内にある9科目が対象で、試験は択一式でした。難易度としては、基礎的な知識で解ける問題と、細かい点まで覚えていないと解けない問題とが混在している印象を受けました。私は卒業して4年が経っていますので、在学時の教科書だけではなく、なるべく新しい教科書を揃え直して読みました。また教科書の独学では理解が足りない部分もあると感じたため、理解を深めたい点は自分で調べることと、在学中の授業のノートやレジュメを参照することで補うようにしました。在学中の方でしたら、司書課程の授業を大切にすることがまずは一番の学習方法であると思います。

私の場合は専門試験の勉強も十分な期間ではありませんでしたが、卒業後も実務のために図書館学に関わる自習が続いていたことと、情報検索基礎能力試験・情報検索応用能力試験2級を取得していたことが良かったと感じました。今年度のA市の専門試験では、情報検索能力試験と類似の問題がいくつか見かけられました。情報検索能力試験は、司書課程の学習と並行して試験勉強が可能な内容ですので、興味のある方は受けられると良いかと思います。

論文試験

過去数年分の出題テーマが公開されていたので、それらをもとに今年度出題されそうなテーマをいくつか予想し、そのテーマに関する基礎知識を調べておくようにしました。(尚、A市の過去出題は司書区分でも行政一般に関するものだったのに対し、今年度は図書館に関するテーマでした。過去問題から確実に予想することは難しいかと思います。)

また、公務員試験論文対策の参考書に目を通し、どのような出題テーマの場合にも共通する文の組み立て方と注意点を覚えていきました。

本番の感想としては「時間が無い」の一点です。時間を計って実際に書く練習をすべきだったと感じました。

面接試験

面接対策としてはまず、前述のエントリーシートをもとにきかれそうな質問を書き出し、Q&Aを作成しました。

一次試験からここまでを独学で取り組んできましたが、一番配点が高い大切な面接までもこのまま臨むことにはいよいよ危険を感じました。公務員試験の知識がまるで乏しい自分ひとりでの面接対策は無謀であると判断し、司書・司書教諭課程室へご相談に伺いました。課程室で月に一度開催されている「司書職採用試験対策のための勉強会」が、運よく面接の2日前に開催されるとのことで参加を申し込みました。勉強会では司書職採用試験に合格されてきた先輩方に模擬面接をしていただき、アドバイスを頂戴したほか、自分で作成したQ&Aについて不安な点もご相談することが出来ました。私の場合は、一人試験準備をしていく中で、公務員試験の面接に対し誤ったイメージを膨らませてしまっていたことが分かりました。面接対策には第三者の目が入ることが必要だと思います。

実際に面接できかけたことも挙げていきたいと思っています。

まず、私は既に社会人ですので、仕事での経験に関する質問を多く受けました。社会人経験がある場合、仕事で大変だったこと、やりがい、なぜ転職することにしたのかといったあたりは必ず問われるのではないかと思います。学生・社会人問わず今まで身につけてきたことと、それを市の職員としてどう活かせるかを具体的に話せるようにしておくことが必須であると感じました。

また、仕事やアルバイト経験だけでなく、人間関係や日頃の生活、趣味に関することから人間性を知ろうとする質問も多くありました。単なる面接対策としてではなく、日々の経験からさまざまなことを感じ取り、考えるという姿勢が大切だと思います。

私は地元であり現在も暮らすA市の単願でした。併願がないのは珍しいということもあってか、短い面接時間の中で2度確認があり、A市単願とした理由についても話しました。縁のな

い自治体や、併願がある場合にも理由を問われることが予想されます。

その他

全体の準備としては、公共図書館に関する本を読み、公共図書館で働いていくにあたっての考えや、自治体職員となる決意を固めていきました。私にとっては公務員となる決意をすることは非常に覚悟の要ることでしたが、考えた末、育ったまちに貢献したいという気持ちを固めていったことが面接でもうまく伝わったのではないかと思います。

他には、A市図書館各館に実際に足を運び、特色や長所・短所を考えること、市の刊行物や雑誌記事・新聞などで、図書館や市政全体の方針・取り組みを調べていきました。受験する自治体や図書館の方針を調べることで求める人材像を読み取ることが出来ると思います。

おわりに

試験を受ける中で、取り組みの不十分さに反省した点も多くありましたし、今の自分に足りない部分をさらに発見することも出来ました。これらはそのまま、春からA市の司書職員として働くにあたり足りない所と言えます。今後も改善に努め頑張っていきたいと思っています。